

SAKUらいぶ 66号

図書館だより

平成 28 年 5 月号



作新学院大学 作新学院大学女子短期大学部 図書館

[ 内容 ]

- ・反省しきり！
- ・あなたのページ
- ・新聞の投稿欄にあなたの意見を送ってみよう
- ・らいぶ Question
- ・SAKUらセレクト
- ・図書館閉館カレンダー

## 反省しきり！

作新学院大学人間文化学部・大学院経営学研究科 教授 高畑哲男

大学を卒業したのは遠い昔のことです。当時は「『塵も積もれば山となる』のように、知識も歳とともに自然に深まり、豊かになるはず」という勝手な思い込みが強かったように思います。その後入学金ができたのを機に、大学院に入学。その頃、渡部昇一先生（当時、上智大学英文科教授）の『知的生活の方法』（講談社現代新書 080/Ko/436）を読み感銘を受け、先生の授業を週一回聴講させていただきました。ずいぶんと遅くなりましたが、生活の中での勉強の意味と大切さを実感できました。

一生のうちで私たちが直接に経験できることは数少ないように思います。それだけに、読書を通じて先人の業績や創意工夫を間接体験できるのは素晴らしいことであり、ありがたいことでもあります。

自分の専門の英語学に限らず、語学力の未熟さには今日でも恥じ入るばかりですが、マイナス思考に陥ることなく、「一つものを知ってよかった」という気持ちをこれからも持ち続けたいと思っています。

私にとっての図書館は、入るたびに緊張すると同時に「少しは賢くなれる（かも?）」という期待を持たせてくれる貴重な場所です。

蛇足になりますが、私のお気に入りの本から3冊を紹介します。

- ・本田宗一郎『私の手が語る』（講談社文庫）
- ・糸川英夫『一日一発想 366 日』（講談社α新書）
- ・増田貴彦『ボスだけを見る欧米人 みんなの顔まで見る日本人』（講談社α新書）





## あなたのページ

…学部生からの投稿です…

### 『世界から猫が消えたなら』 人間文化学部 3年 柿沼朱里

『世界から猫が消えたなら』は、映画プロデューサーの川村元気さんが書かれた小説です。またこの小説は佐藤健さん、宮崎あおいさんの主演で映画化され、5月14日(土)より公開されています。

ある日、余命わずかであることを宣告された主人公。悪魔に「この世界から何かを消す。その代わりに一日だけ命を得る」と告げられ、大切なものをひとつずつ消していくというお話です。

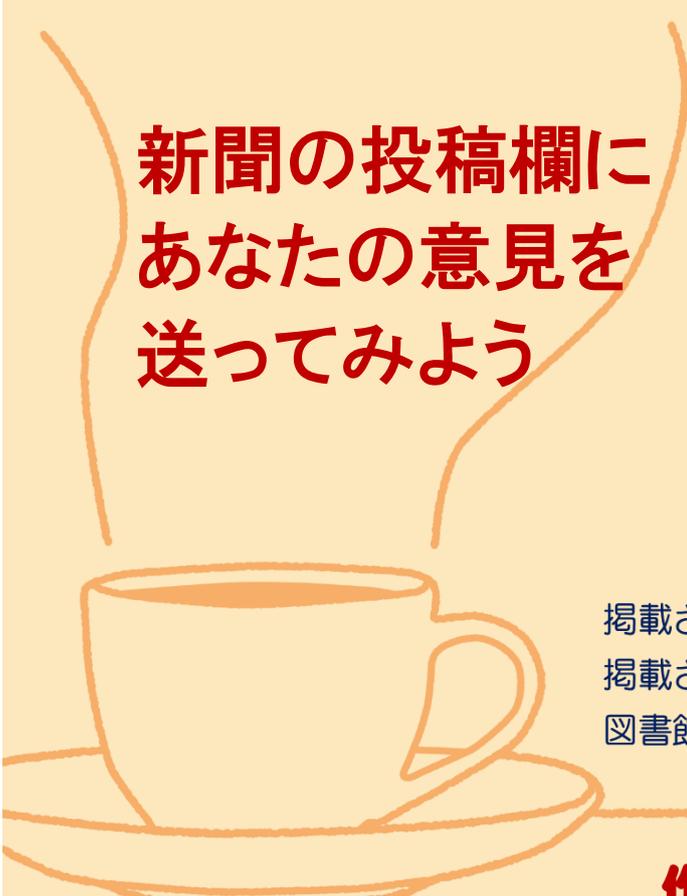
作詞家の秋元康さんが「川村元気の小説は、音楽だ。」と評している通り、一人称で語られる物語は読みやすく芸術性が感じられます。

私には物心ついたころから猫がそばにいました。ひろってきたり、いつのまにか住み着いていたり。1匹1匹の猫たちに思い出があり、愛情があります。この世界から猫がいなくなったら、おそらく私はいままで通りの私ではなくなってしまう。猫だけではなく、ものでも人でも、それは同じだと思いました。

図書館にはさまざまな本がおいてあります。自分を見つめなおすことができる一冊を、ぜひ図書館に来て探してみてください。

SAKUらいぶでは、学生のみなさんからの投稿を募集しています。

本を読んだ感想、学生生活で頑張っていること、日ごろ考えていることなどを400字程度でお書きください。掲載された方には図書館より記念品を贈呈いたします。



新聞の投稿欄に  
あなたの意見を  
送ってみよう

朝日新聞「声」・読売新聞「気流」・  
下野新聞「読者登壇」などの新聞の  
投稿欄にあなたの意見を送ってみ  
ましょう。

テーマに制約はありません。  
自由に意見を述べられます。

掲載されると新聞社から謝礼が贈られます。  
掲載された場合は図書館へもお知らせください。  
図書館からもプレゼントを進呈します。

作文力の腕だめしにもなります

## らいぶ Question

知事の仕事 樺嶋秀吉 著 318.2/Ka より

知事や市町村長、そして(①)も、選挙の洗礼を受ける政治家はすべて、その選挙をどう戦ったかによって当選後の行動が決まる。特定の団体の(②)なしに当選した政治家はフリーハンドが得られる。改革できる知事とは、(③)の枠組みに縛られない知事であり、そういう知事は規制の枠組みの外から誕生することが多い。

図書館にある資料から出題します。答えはカウンターにある解答用紙に記入してください。  
全問正解で1ポイントです。今年度中に5ポイント集めた方には、記念品を贈呈します。

# SAKUらせレクト

～本学図書館にある珠玉の1冊を紹介します～

## 火星に住むつもりかい？ 伊坂幸太郎 著 913.6/Is

仙台を舞台に、住人がお互いに監視し、密告しあう社会を描いています。危険人物と目された者は、「平和警察」による拷問に遭い、ギロチンにかけられる――

冒頭、これでもかと続く暴力シーンに食傷します。いやーな気分になるのは、いつかこんな世の中になってしまうのではないかという危惧が芽生えるから。不気味なリアリティ。

私たち一人ひとりが、ちゃんと自分の頭で考えないととんでもないことになるよという、作者の痛烈なメッセージが心に刺さります。だって私たちは火星に住むわけにはいかないのですから！

ヒーローが現れて、絶望的な状況にも光が見えてきます。それでちょっと救われるかなあ。



### インフォメ

図書館は、ペットボトルや水筒などのフタ付き容器の飲み物を持ち込むことができます。

お菓子やお弁当を食べる場合は、入り口のアトリウムをお使いください。

ただいまアトリウムにて、本学卒業生の歌手、清水孝宏さんのCDを流しています。そちらもお楽しみください。

### 図書館開館カレンダー 6月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

9:00~18:00  9:00~13:30

休館日

~~~~~ 発行・編集 ~~~~~  
作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 図書館  
Tel 028-670-3651・3652  
Fax 028-670-3619  
E-mail [tosyo@sakushin-u.ac.jp](mailto:tosyo@sakushin-u.ac.jp)  
URL <http://www.sakushin-u.ac.jp/library/>

